

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 自らの貢献は何でなければならないか、を考える (P. F. ドラッカー)

1. 自らの果たすべき貢献を考えることが、知識から行動への起点となる。問題は、何に貢献したいかではない。何に貢献せよと言われたかでもない。何に貢献すべきである。長い間、貢献すべきことは、自分以外のなにかによって決められていた。自ら考えることや悩むことはなかった。農民は土地と季節で決められていた。職人は仕事で決められていた。家事使用人はご主人の意向で決められていた。
2. ところが、知識労働者が仕事の主役となるや、彼らに何を貢献させるかが重大な問題になった。そこで、人事部が組織され、それを考えることになった。しかし、人事部全盛の時代は驚くほど短かった。いかなる手法を開発しようとも、人事部なる世話役がやり切れることではないことが明らかになった。そこで早くも 1960 年代には、知識労働者の場合、何を貢献するかは自分で考えるということになった。好きなことをさせることが、最も進んだ方法とされた。
3. もちろん、好きなことをさせてもらうことによって、成果を上げ、併せて自己実現したいという者はそれほど多くはなかった。何を貢献するかを本人に考えさせることは正しかった。だが考えるべきは、何をしたいかではなかった。自らの貢献は何でなければならないか、だった。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2010年3月6日号)

## 経営者のための理念・哲学

### リーダーの不可欠な要素

(安岡正篤)

1. 知識は大事である。人材形成の土台となるからだ。だが、知識はたいてい雑識程度に終わる。雑識は人格を統一する力にはならない。その知識がいろいろな体験を積み、人生的修行を重ねることで、見識になっていく。
2. 見識は物事を判断する基準になる。判断したものを実行する。その勇氣、度胸。これが胆識である。いかに知識、見識があっても実行しなければ、実生活も事業も立派にはできない。胆識を養うことは、リーダーの不可欠な要素である。

(参考:「致知」:2010年6月号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 変化したところが主流

蛭田史郎 (旭化成社長)

1. 創業以来、旭化成は資源のない日本をいかに豊かにさせるかという命題を追求し続けた会社です。「選択と集中」はもちろん大事です。でもその選択した主力事業すら、この変化の激しい時代にあって、未来永劫続くということはありません。だとすれば、常に変化できる芽を確保しておかなくてはなりません。
2. 当社は現在、9つの事業会社を持っています。これはあくまでも瞬間的な姿に過ぎません。時代の変化に応じて融合したり、消えたり、組み替えていく柔軟さが大切です。これだけ多角化していると主流意識が薄く、変化や新しいものへの抵抗感が少ない。強いて言えば、「新しく変わるところこそが主流」というイメージがある。

(参考:「日経ビジネス」2009年3月22日号)

## 古典に学ぶ

### 最後のねばり

「このねばりというものこそ、仕事を完成させるための最後の秘訣であり、同時にまたある意味では、人間としての価値も、最後の土壇場において、このねばりが出るか否かによって、決まると言ってもよいと思うほどです」

(参考:森 信三「修身教授録抄」:致知出版社)